学校番号	１０１２

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	工芸Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	工芸Ⅰ（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「考える」「作る」「使う」という一連の過程を通しておこなう。
「考える」構想する過程が工芸のデザインであり、「作る」は具体化するために取り組む制作の段階であり、最も重要な部分である。そして「使う」は意図したように達成されているか、鑑賞・評価してみる。
この一連の過程を通して工芸学習の意義について理解するとともに、機能と美の統合である工芸の原点と豊かで健全な生活をつくり上げる工芸の意味を理解する。

2　学習の到達目標

・工芸の創造活動を通して、造形の要素に着目し、形や色彩、素材が人に与える様々な効果について考え、知識、技能を身につけることができる。・表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、個別の感じ方や考え方に応じて知識を活用した表現ができる。・工芸を愛好する心情、生活を豊かにするために工夫する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	形や色彩、素材などの造形の要素や、造形的な特徴をもとにして思い浮かべる像や情景などについて抱く全体のイメージなどをとらえるために必要となる視点について理解を深める。 発想や構想したことをもとに表現の意図に応じて、素材や技法、用具などを活用して創造的に表せるようになる。	造形的な良さや美しさ、表現の意図や創意工夫、見る人や使う人の気持ちを豊かにすることなどについて考え、発想や構想する。	工芸を愛好し、生活と美しさとのかかわりに関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。 作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中に生かされている工芸、日本の工芸の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	モザイクタイルの八角鍋敷き	**1. 鑑賞①** 日常の中にある工芸作品や道具について鑑賞し、生活に活きるデザインや形について考える **2. 主題の生成** 調理や食事の場面で使用することを想像し、状況や自己の思いから表したい主題を考える **3. 構想を練る** 表したい主題から発想を広げ、用途と美しさの調和を考えて制作の構想を練る **4. 制作** 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料を生かせるよう創造的に表す **5. 鑑賞②** 完成した作品を相互鑑賞することで、作者の心情や意図、表現の工夫などに注目し、感じたことや考えたことについて見方や感じ方を深める。	a: 形や色彩、素材などの造形の要素についてそれらが感情にもたらす効果をとらえることができている。 発想や構想したことをもとに表現の意図に応じて、素材や技法、用具などを活用して創造的に表している。 b: 造形的な良さや美しさ、表現の意図や創意工夫、見る人や使う人の気持ちを豊かにすることなどについて考え、発想や構想することができている。 c:生活と美しさとのかかわりに関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行うことができている。 作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中に生かされている工芸、日本の工芸の歴史などを理解し、作品に生かしながら制作できた。	鑑賞ワークシート① ワークシート 作品 鑑賞ワークシート②	ワークシート アイデアスケッチ 作品 鑑賞ワークシート②	鑑賞ワークシート① 活動の様子 振り返りシート 鑑賞ワークシート②

2	木彫小物かけ	**1. 鑑賞①** 自己や情景、思いなどをテーマとした工芸作品について鑑賞し、表現と様式美について考える **2. 主題の生成** 自分を表現することをテーマに自己の思いから表したい主題を考える **3. 構想を練る** 表したい主題から発想を広げ、用途と美しさの調和を考えて制作の構想を練る **4. 制作** 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料を生かせるよう創造的に表す **5. 鑑賞②** 完成した作品を相互鑑賞することで、作者の心情や意図、表現の工夫などに注目し、感じたことや考えたことについて見方や感じ方を深める。	a: 形や色彩、素材などの造形の要素についてそれらが感情にもたらす効果をとらえることができている。 発想や構想したことをもとに表現の意図に応じて、素材や技法、用具などを活用して創造的に表している。 b: 造形的な良さや美しさ、表現の意図や創意工夫、見る人や使う人の気持ちを豊かにすることなどについて考え、発想や構想することができている。 c:生活と美しさとのかかわりに関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行うことができている。 作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中に生かされている工芸、日本の工芸の歴史などを理解し、作品に生かしながら制作できた。	鑑賞ワークシート① ワークシート 作品 鑑賞ワークシート②	ワークシート アイデアスケッチ 作品 鑑賞ワークシート②	鑑賞ワークシート① 活動の様子 振り返りシート 鑑賞ワークシート②

3	陶芸小皿	**1. 鑑賞①** 社会的視点の工芸作品について鑑賞し、使う人の視点に立った作品について考える **2. 主題の生成** 使う人の願いなどを想像し社会的な工芸について表したい主題を考える **3. 構想を練る** 表したい主題から発想を広げ、用途と美しさの調和を考えて制作の構想を練る **4. 制作** 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料を生かせるよう創造的に表す **5. 鑑賞②** 完成した作品を相互鑑賞することで、作者の心情や意図、表現の工夫などに注目し、感じたことや考えたことについて見方や感じ方を深める。	a: 形や色彩、素材などの造形の要素についてそれらが感情にもたらす効果をとらえることができている。 発想や構想したことをもとに表現の意図に応じて、素材や技法、用具などを活用して創造的に表している。 b: 造形的な良さや美しさ、表現の意図や創意工夫、見る人や使う人の気持ちを豊かにすることなどについて考え、発想や構想することができている。 c:生活と美しさとのかかわりに関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行うことができている。 作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中に生かされている工芸、日本の工芸の歴史などを理解し、作品に生かしながら制作できた。	鑑賞ワークシート① ワークシート 作品 鑑賞ワークシート②	ワークシート アイデアスケッチ 作品 鑑賞ワークシート②	鑑賞ワークシート① 活動の様子 振り返りシート 鑑賞ワークシート②

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度